

インテグリティ・個人・不偏性

バーナード・ウィリアムズの倫理学理論批判

渡辺 一樹 (Kazuki Watanabe)

所属：東京大学・日本学術振興会

いわゆる規範倫理学 (normative ethics) は、「正しい行為とはいかなるものか」という問いに対して、理論的な答えを提示しようとしてきた。倫理学理論 (ethical theory) と呼ばれるこれらの理論の成果は、倫理学の外部においてすら、よく知られている。例えば一般的な功利主義によれば、正しい行為とは功利を最大化する行為であるとされる。たほう一般的なカント主義によれば、倫理的に許容される行為とは、普遍化可能な行為であるとされる。これら二つの代表的な理論とそのヴァリエーションを中心に、倫理学理論は、相互に批判しあいつつ洗練を重ねてきた。これに対してはしかし、二〇世紀の道德哲学者であるバーナード・ウィリアムズが、正しい行為を理論化する倫理学理論そのものが抱える問題を指摘した。その提起は、多くの論争を呼び、徳倫理学といった新しい倫理学の動向の原因ともなった。論争はいまだつづいており、検討すべき多くの論点を残している。

本発表は、この、ウィリアムズによる倫理学理論批判を検討する。具体的には、「インテグリティによる反論 (integrity objection)」と「一つ余計な思考による反論 (one thought too many objection)」という二つの議論について、議論の眼目を分析するとともに、反論からそれらを擁護することを目指す。ウィリアムズによれば、道德哲学は「そもそも倫理学理論を作ろうとするべきではない」 (Williams 1985: 19)。本発表は、ウィリアムズをしてそのような懐疑的結論へと至らせる議論を擁護する。この議論を検討するには、しかし、二つの課題を乗り越える必要がある。第一の課題は、ウィリアムズの議論はきわめて論争的であるために、多数の反論からの擁護が必要になるという点である。ウィリアムズの議論を整理するだけでは、哲学的に十分であるとは言い難い。第二の課題は、ウィリアムズの議論を整合的に解釈するという点である。彼の懐疑論は、難解ながら、さまざまなテキストに点在しつつ展開される。解釈者は、それらのテキスト相互で整合的な解釈を立てつつ、彼の議論の眼目を説明する必要がある。本発表は、これら二つの課題を乗り越えるという指針のもとで、倫理学理論への懐疑論を検討する。

本発表は、以下の構成をとる。まず、功利主義に対する「インテグリティによる反論」をその記述に沿って整理し、本稿の解釈を示す。次に、ウィリアムズの議論の眼目を示すとともに、同じ眼目のもとで提起される、倫理学理論への「一つ余計な思考からの反論」を検討する。このようにウィリアムズの倫理学理論批判を整理したうえで、最後に、ウィリアムズへの代表的な反論に応答する。すなわち、「我々は理論的反省と実践を区別すべきであり、倫理学理論が関わるのは理論的反省の方であって、実践ではない」という反論に応答する。

主要参考文献

- Brink, D. (1986). "Utilitarian Morality and the Personal Point of View.", *The Journal of Philosophy*, 83(8), pp.417-438.
- Nussbaum, M. (2000). "Why Practice Needs Ethical Theory: Particularism, Principle and Bad Behavior.", In Hooker, B. & Little, M. O. (eds.), *Moral Particularism*, Oxford U. P., pp.227-255.
- Railton, P. (1984). "Alienation, Consequentialism, and the Demands of Morality.", *Philosophy & Public Affairs*, 13 (2), pp.134-171.
- Smyth, N. (2018). "Integration and authority: rescuing the "one thought too many" problem.", *Canadian Journal of Philosophy* 48 (6), pp.812-830.
- Scherkoske, G. (2013). "Whither Integrity II: Integrity and Impartial Morality.", *Philosophy Compass*, 8, pp.40-52.
- Williams, B. (1973). "A Critique of Utilitarianism." In Smart, J. J. C. & Williams, B. *Utilitarianism: For and Against*. Cambridge U. P. pp.75-150.
- , (1982). *Moral Luck: Philosophical Papers 1973-1980*, Cambridge U. P. [ウィリアムズ, B (伊勢田哲治監訳) (2019). 『道徳的な運 哲学論集一九七三～一九八〇』 勁草書房] .
- , (1985/2011). *Ethics and the Limits of Philosophy*, Routledge Classics, Routledge. [ウィリアムズ, B. (森脇康友・下川潔訳) (2020). 『生き方について哲学は何が言えるか』 ちくま学芸文庫] .
- , (1995a). *Making Sense of Humanity: And Other Philosophical Papers 1982-1993*, Cambridge U. P.
- , (1995b). "Replies." In Altham, J. E. J. and Harrison, R. (eds.), *World, Mind, and Ethics: Essays on the ethical philosophy of Bernard Williams*, Cambridge U. P., pp.185-224.
- 都築 貴博 (2008). 「ウィリアムズにおける全一性と道徳的行為者性」 北海道大学哲学会編『哲学』第44号, 101-118頁.
- 成田 和信 (1994). 「功利主義倫理学とパーソナル・インテグリティ」 三田哲学会編『哲学』第97号, 41-63頁.